

第 17 回日本在宅医学会大会 シンポジウム 概要

開催日	2015 年 4 月 25 日(土)		時間	15：20～16：50	収容人数	150 名
タイトル	公募演題「実践的在宅医療若き Dr の取組み」					
テーマ	2060 年まで増え続ける 75 歳以上の超高齢者の医療を支える事は在宅医の使命である。若手在宅医から在宅医療の魅力を発信して頂く。					
概要	超高齢社会・多死社会を支えるために必要なものは何でしょうか？まさしく、もりおか大会のメインテーマ、「生きかた＝逝きかた」を支える在宅医療を実践する事でありましょう。「家で家族に見守られながら最期を迎えたい」「独居であっても家で最期を迎えたい」「病院嫌い」「入院したいけど諸事情により入院できない」など理由は様々でしょう。そんな多種多様な患者の「生きかた」「逝きかた」を支えるには、医療系サービス（訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ・訪問薬剤管理・訪問歯科など）と、介護系サービス（ケアマネージャー・ホームヘルパー、通所サービスなど）をうまく利用し、家族はもちろんの事、地域も巻き込んでいく必要があります。医師がどのようにタクトを振るい、地域・多職種を取り込み、オーダーメイドのプランで患者の在宅療養を支援していくか、超高齢社会・多死社会が今よりも顕著になり、在宅医の手腕が今よりも問われる時代が間違いなく訪れるのです。 「訪問診療」「在宅看取り」「地域連携」などについてはほとんど触れられていない我が国の医学教育の現状では、「在宅医療」を実践する若手医師の様々な臨床実践、後進の育成が今後のわが国で患者の在宅療養を支援する体制が充実する鍵であると考えられます。 このような理由から、今回、在宅医療に携わる若手の先生方のお話を伺う機会を設けました。様々な地域・分野でご活躍されている先生方に、それぞれの立場から在宅医療の醍醐味・苦悩、現在抱えている問題点、後進を育成するための取り組み、10 年後 20 年後を見据えた戦略などについて語って頂きます。医師の皆様はもちろん、多職種の皆様からのご提案も是非頂きたいと考えております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。					
企画者 情報	ふりがな	姓	ひさじま	名	かずひろ	
	氏名		久島		和洋	
	所属施設	医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン鎌倉診療所				
	部門					
	役職	訪問診療部部长				
ご略歴	佐賀医科大学胸部外科にて研修後、沖縄県宮古島のドクターゴン診療所に 30 歳で就職、5 年あまり宮古島で外来・訪問診療に携わった。その後、鎌倉市の鎌倉常盤クリニックに異動、訪問診療を中心としたドクターゴン鎌倉診療所の開院時の院長として異動後、現在は同診療所訪問診療部部长。 日本在宅医学会認定専門医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリケア認定医・指導医					